

## 国際シンポジウム「異文化としての日本」プログラム

主催：名古屋大学大学院国際言語文化研究科

開催日：2008年11月1日（土）、2日（日）

場所：名古屋大学文系総合館（カンファレンスホール、オープンホール、609教室）

1日目 11月1日（土）

12:30 受付開始	
13:00 開会式（山本進一副総長挨拶、吉村正和研究科長挨拶）	
13:30～14:30 基調講演1 張 龍妹（北京日本学研究中心） 「中国における日本文学文化研究の現状と動向」 司会 胡潔（名古屋大学）	
14:45～16:00 分科会①	
「文化の部」“異文化としての〈恋愛〉” 胡潔（名古屋大学） 婚姻形態と文学 —「恋」の諸相の底流にあるもの— 前野みち子（名古屋大学） 明治初期翻訳政治小説における恋愛 渡辺美樹（名古屋大学） 日本での『嵐が丘』翻案について 司会 前野みち子（名古屋大学）	「言語の部」 李澤熊（名古屋大学） 「確かに」と「間違いなく」の意味分析 鄭芝淑（名古屋大学） 日本語能力試験とことわざ 張麟声（大阪府立大学） 作文語彙に見られる母語の転移 —中国語話者による漢語語彙の転移を中心に— 司会 鷺見幸美（名古屋大学）
16:00～17:00 ワークショップ 小坂光一（名古屋大学） 「言語教授法における発想の転換 — TPR の実践—」 トルコ語教師：アックシュ・ダリア（国際開発研究科D3院生）	
17:00～18:00 基調講演2 張威（清華大学） 「日本語教育における複合動詞の位置づけへの見直し —その基礎研究の意義を中心に—」 司会 杉村 泰（名古屋大学）	

2日目 11月2日 (日)

8:30 受付開始	
9:00~10:00 基調講演3 Peter Ackerman (Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg) 「グローバル化時代の日本語教育 ―文化のマイクロ・レベルに焦点を合わせて―」 司会 小坂光一 (名古屋大学)	
10:15~11:05、11:05~12:00 分科会②	
「文化の部」 “歌舞伎と異文化との出会い” 柴田庄一 (名古屋大学) 「超近代芸術」としての歌舞伎と近代化の功罪 大庭正春 (名古屋大学) マックス・ダウテンダイと歌舞伎 司会 柴田庄一 (名古屋大学)	「言語の部」 秦明吾 (名古屋大学) 「米粉」や「KY」、「做人不能太CNN」などに見られる中日対訳の難しさ 奥田智樹 (名古屋大学) 文末で用いられるオノマトペについて 司会 杉村泰 (名古屋大学)
「文化の部」 “異文化接触・摩擦としての近代化” 森田勝昭 (甲南女子大学) 植民地支配下の韓半島沿岸捕鯨と日本の小型沿岸捕鯨文化の生成 福田真人 (名古屋大学) 江戸の労咳、明治の肺病 司会 森田勝昭 (甲南女子大学)	「言語の部」 小林ミナ (早稲田大学) 日常会話で使われたイ形容詞 片岡邦好 (愛知大学) 口語的手紙文における字体と絵文字の指標的特性 司会 池田佳子 (名古屋大学)
12:00~13:00 昼休み	
13:00~14:00 名古屋大学国際言語文化研究科大学院生によるポスター発表 (発表者と要旨は後のページに掲載)	
14:15~15:15 基調講演4 Patricia Wetzel (ポートランド州立大学) 「広告表現における言語世界」 司会 (兼通訳) 池田佳子 (名古屋大学)	
15:30~16:45 分科会③	
「文化の部」 “日本と西洋―異文化イメージをめぐって―”	「言語の部」 鷺見幸美 (名古屋大学)

<p>ロナルド・スチュワート（広島県立大学）</p> <p>日本のイメージを整理できなかったアーティスト —フランク・A・ナンキベルによる日本のイメージの使用1890-1940 年代—</p> <p>涌井隆（名古屋大学）</p> <p>パーシバル・ローウェルは日本人と火星人をどう見たか</p> <p>司会 福田真人（名古屋大学）</p>	<p>法学専門研究留学生に必要な学術日本語力</p> <p>衣川隆生（名古屋大学）</p> <p>学習動機・到達目標・学習計画の意識化・精緻化を目的とした作文授業について</p> <p>—学習者の自律学習能力の顕在化を目指して—</p> <p>杉村 泰（名古屋大学）</p> <p>日本人大学生のための日本語文法教育</p> <p>司会 小坂光一（名古屋大学）</p>
<p>17:00～17:15 閉会式</p>	